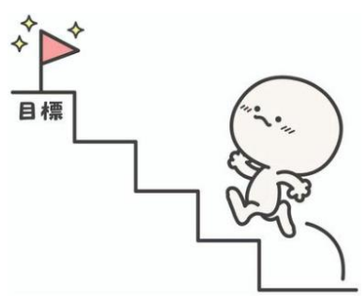
Action

町田市立薬師中学校
第２学年
令和７年１２月１２日
第３１号

標準点との向き合い方



11 月末に実施した領域診断テストを覚えていますか。そのテストの結果が本日返ってきます。今回のテストは、都内約 50～60 校の中学 2 年生が受験しており、受験した生徒の中で自分の学力はどのあたりに位置するのかを示す「標準点」がテスト結果に載せられています。

中学 2 年生であれば、初めて自分の標準点を渡されるという人も多いのではないでしょうか。初めて渡された標準点は一見すると、学力の優劣を表しているように思えるかもしれませんが、そうではありません。このような勘違いをして、良くも悪くも標準点に振り回されないために、標準点との向き合い方を紹介しましょう。

①標準点は、あくまで１つの指標である

平均点が標準点５０となり、受験者の約６８％が標準点４０～６０の間に位置します。標準点６０以上は受験者全体の上位約１６％に位置する計算になります。これだけ知ると標準点の上下で一喜一憂してしまいそうですが、この**標準点はテスト範囲や誰が受験するかによって簡単に変わります。**ですので、標準点で自分は勉強が得意か否かを分かったつもりになるのではなく、そのテスト範囲の理解度について、他の生徒と自分の差を知れたと考えましょう。

②標準点は、今後の学習戦略を立てる目安として活用しよう

中３の高校入試では、高校ごとに入学できる人数が限られているため、そこに入学したいと思う人が定員より多ければ、競争に勝ち抜かなければいけません。標準点は理解度の差を表してくれるので、どの教科、どの分野が弱かったのかを徹底的に分析し、苦手分野の克服の機会として活かすことができます。例えば、正答率５０％以上の問題（多くの人が正解している問題）を確実に取れるようにテストを解き直すなど、様々な戦略を自分で考えて、日々の勉強に反映させましょう。

この先、自分の標準点を目にする機会はますます増えていきます。薬師中学校でも３年生で領域診断テストをまた実施する予定です。なかなか願うような標準点が出ないと悩むことがあれば、標準点との向き合い方を思い出してください。**大切なのは、標準点が上がっても下がっても、その原因を分析することです。**標準点を、目標達成に向けた道のりでの現在地を示すカーナビのようなものだと思って、その数値に振り回されず、目標までの道筋を見つけるために冷静に活用していきましょう。

職場体験の思い出　その3